

# 伝統を守り伝える

文化振興課 ☎(94)2152

市内には、各時代の人々の営みと歴史を物語る数多くの文化財が残されています。これらは、地域の皆さんの努力によって大切に受け継がれています。今月号では、地域の文化財保護団体の中から、榊衝神社太鼓獅子保存会の活動を紹介いたします。

## 見る人を魅了する 勇壮で優雅な舞



太鼓獅子は榊衝地区に伝わる伝統芸能で、旧暦のうるう年に榊衝神社の本祭りで行われる神輿渡御で披露されています。かつては旧暦の7月10日に行われていましたが、9月17日、10月1日と変遷し、現在は10月の第1日曜日に行われています。

その由来は奈良時代まで遡るとの伝承がありますが、江戸時代の元禄年間(1688年〜1704年)に、現在のようになつたと言われています。



太鼓で祭りを盛り上げる子どもたち

榊衝神社の太鼓獅子は、一般に見られる一人使いの獅子舞とは異なり、獅子の中に数人が入って踊り、伎楽(海外から伝わった日本最古の芸能)を思わせる百足獅子と、それに続く艶やかな衣装を身

にまとった子どもたちの小気味よい太鼓打ちが特徴です。およそ300メートルの参道を3時間掛けてゆつくりと舞い進む姿は、見る人に勇壮で優雅な雰囲気を感じさせます。

太鼓獅子は、古式な形態を残しており貴重であるなどの理由から、昭和43年に旧長沼町(現須賀川市)無形民俗文化財に指定されました。

## 様々な世代が交流し 郷土芸能を伝承



太鼓獅子の保存伝承活動は、平成19年4月に設立した榊衝神社太鼓獅子保存会により行われています。

中心となる活動は、本番に向けての練習を通じた伝承活動です。練習は9月から始まり、太鼓打ちを担当する榊衝地区の子どもたちは、大太鼓と小太鼓に分かれ、保存会の指導の下、本番前日に行われる宵祭りまで練習を続けます。

このほか、太鼓獅子で使われる楽器などの道具や衣装の手入れも大事な活動です。今



迫力ある舞を披露する百足獅子

年は40年以上大切に使用していた小太鼓を、市の補助金も活用し修繕しました。

## 多くの人に魅力を 伝える保存会



保存会は、地域の子どもたちへのこの芸能を伝えていくため、学校とも協力しています。平成30年には長沼東小と協力して長沼東部コミュニティセンターでお披露目会を開催し、榊衝地区以外から通う子

どもたちにもこの伝統芸能に触れてもらいました。

この行事には、1年生から6年生までの約30人が参加し、保存会のサポートを受けながら、6年生が大太鼓、5年生以下が小太鼓を演奏しました。

保存会では、このような活動を通じて、地域の伝統芸能としてこれまで大切に受け継がれてきた太鼓獅子を守り続けるとともに、多くの人にその魅力を伝えていきます。

## こども俳句教室・すかがわ俳句ラボ

# 五七五に 心を映して

風流のはじめ館 ☎(72)1212



市では、小学生を対象にした「俳句出前教室」や「夏休みこども俳句教室」、市内外の高校生を対象にした「すかがわ俳句ラボ」を毎年開催し、俳句の楽しさや魅力を伝えています。

## 子どもたちが

## 俳句を親しむ場に

## 俳句出前教室

俳句講師が市内児童クラブに出向き、俳句作りに親しんでもらう教室です。

講師からは「楽しい」「うれしい」などの感情をそのまま言葉にするのではなく、間接的な言葉で気持ちを表すコツなどを教わります。

## 夏休みこども俳句教室

低学年の部(1〜3年、保護者)と、高学年の部(4〜6年)に分けて行っています。青空の下、風流のはじめ館の庭で、水鉄砲やシャボン玉、紙飛行機で遊んだり、昆虫や風鈴、蚊取線香などの句材を見付けたりして、五感で楽しみながら俳句を作ります。

## 子どもたちの俳句を紹介します

みずてつぼうまどにびちやつとあたたつたよ	1年	ゆうき
おとうとと田んぼのさんぽあげはちょう	2年	るりか
ハウセンカはじけて夏の終わりが	3年	そうき
手のひらに空気のおもみ紙風せん	4年	なな
日照りの日玉砂り守るせきもり石	5年	いつき
ピチピチの水着で知った私の背	6年	あやか

## すかがわ俳句ラボ

市内外の文学部に所属する高校生を対象にした俳句講座です。

参加する生徒たちは、午前中は講師による講義、午後は実践形式による学校対抗戦と集中的に俳句を学ぶ一日を過

ごし、俳句への興味と理解を高めます。

## 和文化を通じた 学びと愉しみを

俳句教室などでは、暮らしの中の小さな気付きや感動を言葉にし、大切な家族や友達を詠んだ作品や、その年代ならではの視線を通したみずみずしい作品がたくさん詠まれています。風流のはじめ館では、俳句を中心とした多様な和文化を通し、世代を超えて、人々が学び愉しむ機会を届けていきます。

## 俳句教室に参加してみようでしたか？



第一小5年 張堂春花 さん(左)  
外で俳句の材料を探すのが楽しく、言葉遊びもおもしろかったです。  
仁井田小5年 五十嵐心 さん  
季語を見付け、自分で考えて俳句を作るのがとても楽しかったです。

## 講師 桔槌吟社 同人の皆さんから



▶五七五で表現すると、とても言葉が新鮮に感じられます。  
▶イキイキと変わっていく子どもたちの表情に感動させられました。  
▶俳句に特別な道具はいりません。場所も選びません。親子で一緒に楽しむことができます。